

最高決定

機能をもつ

はじめに

この學部の民権的改革を講ずる場合、その中心は大學の民権改革とは何か、その基本的理想がどこにあるのかといふことを明確にして置く必要なるより。現在、政府、地方の大學に対する政治的姿勢は非常に不満足であるといふ。その感は中にある。従来の教育行政當局では、むしろ封建的君主主義の世としてこの大學を押し導いてゐたといふ。今、民権主義學生が、この

文学の民主的改革
とは何か

—その方向性

この暴論的視座をいさえて上で、
わが文化の個性を、我々
は固執に堅持するわけはなうまい。
そのことはまづやうに、実質的な論

學部協成會は、文學部の研究教育上の重要で且つ基本的な問題（予算・カリキュラム・処分等）に關し、教官と學生がその合意事項を責任を持って遂行する義務を負つ、實業大學院決定有能を担つた點である。更に、學部長の性格が學部と教員との間にあるにとかつ、現在では、その責任を固くして學生の指導に、向う反映されてゐない、我々には、學部長並への學生参加をなす必要が、ある。

文学部 学部委員会